



本号の主な内容

- 2 面 平成 22 年度 総支部長・支部長、各委員決まる
3 面 技術情報共有発表会を開催 6 件の発表を実施
【学会の目・眼・芽】第 17 回 小野良平
4 面 建設の現場で働く人のための退職金「建退共制度」について
【緑滴】公園緑地の利用の方法、意義の変化に想う
11 月は「建設業取引適正化推進月間」立入検査等を実施



都市緑化キャンペーンのもよう

都市緑化月間 都市緑化キャンペーンを開催 全国各地で多彩なイベントを展開

10 月は都市緑化月間。10 月 1 日から 31 日を「都市緑化月間」として、国営公園の無料開放など全国で様々なイベントが実施される。10 月 1 日には、東京・有楽町駅前広場で、都市緑化キャンペーンが開催され、日造協からは佐藤四郎前会長が参加。キャンペーンのメ

都市緑化月間は、「ひろげよう 育てよう みどりの都市」を全国統一テーマに、国及び地方公共団体が関係諸団体の参加と協力を得て、都市緑化推進のための諸活動を行い、地域住民の緑化意識の高揚を図り、もって都市の緑化及び都市

公園等の整備の促進を図るもの。都市における潤いのある緑豊かな生活環境を確保し、豊かなとゆとりを実現できる国民生活を実現する

には、都市公園等の整備を積極的に進めるとともに、地域住民や関係諸団体の積極的な参加と協力による緑地の保全及び緑化の推進など、総合的な都市緑化施策の展開が必要。

あわせて京都議定書目標達成計画においても、都市緑化等が国民にとつて最も日常生活に身近な吸収源対策であり、その普及啓発や

の緑の保全・創出や都市公

園、街路樹の整備等を推進し、住民参加による緑豊かな美しいまちづくりを展開するため、「都市緑化月間」を行っている。

有楽町駅前広場で行われたキャンペーンは、日造協をはじめ緑化関連団体等で構成する都市緑化推進運動協力会（事務局・財都市緑化基金）が主催。国土交通省、全国知事会、全国市長会、全国町村会等の後援で実施された。

会場では、里山の象徴でもある「竹」の楽器作りを、来場者を行い、皆でコンサートを行う企画も展開。

2011 年開催の全国都市緑化がこしまフェアからマスコットキャラクター

た。

なお、キャンペーンには、首都圏各地の市民緑化団体の皆さんがボランティアとして多数参加。日頃から緑化活動に取り組む皆さんと、都市緑化の大切さを、街行く人に訴えた。

そのほか、都市緑化月間中は、銀座 4 丁目交差点のビジョンにて、緑の大切さをアピールしている。

その中心となる「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会は 10 月 29 日、東京・日比谷公会堂で 13 時半から 16 時半にわたって開催される。

全国大会では、都市緑化及び都市公園保全美化運動功労者等の表彰をはじめ、「公園でウォーキングを楽しむ」と題して、ウォーキングドクターのデューク更家氏による講演を実施。

そのほか、第 26 回都市公園コンクール・国土交通大臣賞受賞団体、第 30 回緑の都市賞・内閣総理大臣賞受賞団体による報告が行われる。会員各位の参加をお願いします。

日造協 都市緑化月間に合わせて展開 全国造園フェスティバル 会員が様々な催事を展開

「花と緑で美しい日本を」をメインテーマに、日造協の会員が身近な公園や広場などを会場に全国で一斉に花と緑のアピールを行う「全国造園フェスティバル」が 10 月 9 日から 11 日を中心に全国各地の各会場で行われています。最新の実施内容はホームページに掲載しています。

樹林

平成 22 年 6 月の日造協総会で当会の理事になることを承認されました。よろしく願います。

本文に入る前に、自己紹介を兼ねて、簡単に経歴を紹介いたします。約 38 年間にわたり新潟大学農学部勤務し、園芸学研究室で教育・研究に携わってきました。主な研究は「絶滅危惧種ヒメサユリの増殖と保護」です。講義は「花卉園芸学」を中心に「蔬菜園芸学」や「果樹園芸学」も担当したこともありました。また、「造園学」は非常勤講師の方をお願いしました。そのため、「造園学」は大学時代に講義を受けたのみで、造園関連の教育・研究にはほとんど縁がありませんでした。しかし、大学在職中に国、県や市の各委員に委嘱され、国営越後丘陵公園、新潟県立植物園や越後三国川ダム公園などの基本構想・計画の委員会に

緑あふれる街づくりをめざしてー受動から能動へ

日造協理事、新潟大学名誉教授 新美 芳二



でした。一般人の方でも日造協の活動を知る機会がはきわめて少ないと思います。このような状況は大学や各学会にもあり、そのことに危機感を感じた大学は公開講座や市民開放授業を行い、また多くの学会も開催地で一般市民向けの公開講演会等を実施して、市民に教育・研究成果を知ってもらうように努力しています。

動」ではなく「能動」的に、今まで以上に推進する必要があると思います。例えば、住民が周辺の公園や街なかの緑化や環境について日頃何を考え、要望しているかを明らかにして、まとめ

たものを国や地方自治体に事業として行うことを提案する活動もその一つです。これは日造協の目的や役割を第三者に知っていただくためのよい機会と

なるばかりではなく、それに関連した仕事に日造協会員も関わることができ、かもしれないという一石二鳥の効果があると思います。このような活動を通して、現在の日本が抱えている生活空間における環境問題、特に住民の日常生活を豊かにする視点にもついた造園に関連した諸問題の解決に専門家の立場から積極的に関わっていくべき

的、定期的、継続的に開催し、その住人たちが積極的に意見交換をして、要望・要求をまとめる地道な活動があります。このような活動は、特に現在の経済情勢のもと、企業には至難の業かもしれませんが、日造協やその支部が「街づくりと造園」に関連した地域住民の要望・要求をまとめ上げて、国・地方自治体に提案する橋渡し役を果たすことができます。ぜひ考えていただきたいと思っています。

私自身がイメージする安らぎ・癒しを感じ、また訪れたいと思う場所があり、街なかや街路には季節を感じる花々や緑豊かな木々があり、季節の移り変わりをそのまま感じることのできる街です。このような街は一朝一夕にはできませんが、ヨーロッパを旅するとそのような街にしばしば出会います。快適な、緑豊かな街づくりに日造協の会員が国や地方自治体と協力して一歩一歩推進することを期待しています。



技術情報共有発表会の冒頭あいさつする藤巻司郎会長

発表は、①東北総支部の草刈機事故ゼロをめざして、②関東・甲信(神奈川)の新しい造園技術「モザイク」の紹介、③中部(静岡)の新しい造園技術「モザイク」の紹介、④近畿(奈良)の東の鎌倉鶴岡八幡宮大銀杏移

日造協は9月10日、大阪市の大阪キャッスルホテルで、第4回技術情報共有発表会を開催し、会場には150名を超える会員が全国から集まった。発表会は冒頭、藤巻司郎日造協会長が、「貴重な情報に触れるまたとない機会であり、今日の発表を大いに役立てていただきたい」とあいさつ。技術委員会の大場淳一委員の司会で、講師を行う(社)日本造園学会副会長の増田昇大阪府立大学大学院教授のご紹介に次いで、発表が行われた。なお、発表内容の詳細は後日、HPに掲載する予定です。

技術情報共有発表会を開催

総支部・支部、学会から発表6件

品選集」にみる造園事業の変化と特長の6つの発表が行われた。

増田教授講評

草刈の話からLIDの話まで今回の発表を聞いて、造園技術の領域の幅広さを再認識し、東院庭園とモザイクカルチャーに代表されるように伝統的なものから新しいものまで、新旧の奥深さもうかがえた。

日造協では、今年度のスローガンとして『造園力』のちを支える造園技術で

施工、管理が分離されてし

近年は造園事業も、設計、草刈機の課題も管理に適切な予算が見込まれてい

持続可能な未来へ』を掲げているが、名古屋での第10回生物多様性締約国会議開催も踏まえ、生物、生命体を大切にしていることが、造園技術の基本的なところであり、出来上がったところが100%の土木や建築に対し、造園は出来上がった後も、ずっと、いのちを支える技術、を駆使し続けていることを、改めて社会にアピールしていくことも重要だと感じた。

まい、東院庭園では、管理予算のカットの話もあった。しかし、昔の庭園はすべてがつながり、保育することが当たり前だった。20世紀の建設の時代から、21世紀のマネジメントの時代、成熟社会の中で、より質の高い管理が求められる、造園技術を生かした保育が大切になり、これをビジネスチャンスとして捉えることもできるのではない。

現に優れたアーティストと

環境負荷低減に優れた技術

いことが原因の一つであり、これも安全管理というマナー・マネジメントの一つである。学会の鈴木先生の話に、造園は「学術、芸術、技術」とあったが、モザイクカルチャーやLIDなどのように、新しい技術が開発されると、新たなデザイン・芸術作品が生まれる素地ができ、それぞれ連環している。伝統的なトピアリーと異なるモザイクカルチャーには、植物を知る造園と、表

トグとともに、環境への負荷低減が求められている。残念なことに、造園が環境負荷低減に優れた技術

技術委員				
区分	氏名	会社名	部会	支部
委員長	高橋 一輔	アゴラ造園(株)		東京
副委員長	卯之原 昇	(株)昭和造園	制度・資格	〃
〃	松本 透	(株)富士植木	企画開発	〃
〃	伊藤 幸男	(株)日比谷アメニス	技術情報	〃
〃	鈴木 義人	(株)柳島寿々喜園	施工技術	〃
委員	河内 幹彦	横浜植木(株)北海道支店		北海道
〃	渡辺 裕一	(株)宮城県林業開発センター		宮城
〃	渡邊 進	(株)八廣園		埼玉
〃	生方 幸寿	東急グリーンシステム(株)	技術情報 制度・資格	東京
〃	大場 淳一	(株)大場造園	技術情報 制度・資格	〃
〃	荻野 淳司	アゴラ造園(株)	施工技術 企画開発	〃
〃	梶井 直和	物林(株)	施工技術 企画開発	〃
〃	小出 裕	(株)岩城	施工技術 企画開発	〃
〃	高田 和己	東武緑地(株)	施工技術 制度・資格	〃
〃	中村 秀樹	内山緑地建設(株)	技術情報 企画開発	〃
〃	中村 良孝	(株)飛鳥	技術情報 施工技術	〃
〃	飯田 裕之	加勢造園(株)	技術情報 制度・資格	〃
〃	吉村 長泰	(株)吉村造園	制度・資格 企画開発	〃
〃	内田 卓弘	(株)内田造園	施工技術 企画開発	神奈川
〃	福沢 敏	綿半インテック(株)	技術情報 制度・資格	長野
〃	北 総一郎	北造園(株)		石川
〃	久保田健児	(株)東海美松園		三重
〃	井内 優	(株)井内屋種苗園		和歌山
〃	足利 茂	興園園芸 (株)		広島
〃	高須賀盛満	高須賀緑地建設(株)		愛媛
〃	古賀 正	古賀緑地建設 (株)		福岡
〃	永島 昌和	(有)桂植木		沖縄

事業委員				
区分	氏名	会社名	部会	支部
委員長	梅川 真澄	(株)富士植木		東京
副委員長	望月 勝保	藤木園緑化土木(株)	事業企画	千葉
〃	風間 啓秀	日産緑化(株)	教育・研修	東京
〃	河嶋 功	イビディンググリーンテック(株)	公益活動	岐阜
委員	四宮 繁	(株)四宮造園		北海道
〃	酒井 利明	アルファグリーン(株)		秋田
〃	鈴木 一彦	(株)東松園	事業企画	千葉
〃	櫻井 道弘	王子木材緑化(株)	教育・研修	東京
〃	関根 武	内山緑地建設(株)	事業企画	〃
〃	添川 秀樹	(株)理研グリーン	教育・研修	〃
〃	寺崎 俊司	西武造園(株)	事業企画	〃
〃	丸 健一	住友林業緑化(株)	公益活動	〃
〃	丸山 賢史	(株)日比谷アメニス	公益活動	〃
〃	室橋 智	物林(株)	公益活動	〃
〃	榎本甲子男	藤造園建設(株)	教育・研修	神奈川
〃	加茂 輝隆	富山興業(株)		富山
〃	井原 剛	(株)愛樹園		静岡
〃	中島 祥之	花佐造園(株)		奈良
〃	持田 正樹	(株)もちだ園芸		鳥根
〃	稲富 俊広	(有)稲富造園		徳島
〃	鶴田 忠嗣	(株)鶴松造園建設		佐賀
〃	永島 昌和	(有)桂植木		沖縄

国際委員			
区分	氏名	会社名	支部
委員長	和田 新也	箱根植木(株)	東京
副委員長	松本 朗	(株)富士植木	〃
委員	青部健由樹	西武造園(株)	〃
〃	石渡 浩	箱根植木(株)	〃
〃	伊藤 幸男	(株)日比谷アメニス	〃
〃	関根 武	内山緑地建設(株)	〃
〃	高橋正之輔	アゴラ造園(株)	〃
〃	田丸 敬三	東光園緑化(株)	〃
〃	藤田 良司	(株)九州造園	福岡

倫理委員			
区分	氏名	団体名	
委員長	近藤 公夫	奈良女子大学名誉教授	
副委員長	伊藤 英昌	(財)公園緑地管理財団副理事長	
委員	初谷 雄一	(財)建設業振興基金専務理事	
〃	荻茂寿太郎	熊本県立大学理事長	
〃	涌井 史郎	東京都市大学環境情報学部教授	

アクションプログラム推進等特別委員			
区分	氏名	会社名	支部
委員長	和田 新也	箱根植木(株)	東京
副委員長	関根 武	内山緑地建設(株)	〃
委員	涌井 史郎	東京都市大学環境情報学部教授	
〃	須磨佳津江	キャスト	
〃	大場 啓壽	青葉造園(株)	宮城
〃	有賀 光昭	西武造園(株)	東京
〃	奥本 寛	(株)日比谷アメニス	〃
〃	田丸 敬三	東光園緑化(株)	〃
〃	山田 康博	(株)サカタのタネ	神奈川
〃	土志田 淳	横浜庭苑(株)	〃
〃	久郷 慎治	(株)久郷一樹園	富山
〃	木山 総	(株)京阪神グリーン	大阪
〃	久保 和男	(株)葉隠緑化建設	佐賀

平成22年度 (社)日本造園建設業協会 総支部長・支部長 各種委員が決定

総支部長・支部長		
支部名	支部長	会社名
北海道総支部	笹本 知	(株)北海道造園コンサルタント
北海道	笹本 知	(株)北海道造園コンサルタント
東北総支部	渡部 佐界	庄内園芸緑化(株)
青森県	山谷 弘美	環境緑花工業(株)
岩手県	米内 吉榮	(株)米内造園
宮城県	阿部紀久雄	東北緑化環境保全(株)
秋田県	加藤 薫	桂造園土木(株)
山形県	渡部 佐界	庄内園芸緑化(株)
福島県	櫻井 貞夫	桜井造園(株)
関東・甲信総支部	加勢 充晴	加勢造園(株)
茨城県	川上 一夫	(株)川上農場
栃木県	増田 博一	(株)増田造園
群馬県	山田 忠雄	山梅造園土木(株)
埼玉県	渡邊 進	(株)八廣園
千葉県	望月 勝保	藤木園緑化土木(株)
東京都	卯之原 昇	(株)昭和造園
神奈川県	山田 康博	(株)サカタのタネ
山梨県	齊藤 陽一	(株)富士グリーンテック
長野県	山崎 信幸	(株)長遊園
北陸総支部	磯部 久人	グリーン産業(株)
新潟県	磯部 久人	グリーン産業(株)
富山県	久郷 慎治	(株)久郷一樹園
石川県	岸 省三	(株)岸グリーンサービス
中部総支部	大島 嘉七	大島造園土木(株)
岐阜県	小栗 勝郎	(株)岐阜造園
静岡県	井原 剛	(株)愛樹園
愛知県	大島 嘉七	大島造園土木(株)
三重県	久保田健児	(株)東海美松園
近畿総支部	坂上 信明	(株)昭和造園土木
福井県	宇坪 啓造	北陸緑化(株)
滋賀県	高木 淳一	(株)高木造園
京都府	小林 正典	(株)小林造園
大阪府	木山 総	(株)京阪神グリーン
兵庫県	中西 勝	(株)中西総合ガーデン
奈良県	中島 祥之	花佐造園(株)
和歌山県	井内 優	(株)井内屋種苗園
中国総支部	正本 大	みずえ緑地(株)
岡山県	大村 清次	(株)清光園芸
広島県	正本 大	みずえ緑地(株)
鳥取県	田中 静雄	(株)田中造園土木
島根県	川島 昇	(株)庭の川島
山口県	高畑 満夫	(株)セントラルサービス
四国総支部	鬼頭 慎一	(株)双葉造園
徳島県	関 正義	マルセー緑化建設(株)
香川県	森 茂	(株)森造園
高知県	高尾 剛	平成緑化建設(株)
愛媛県	成瀬 要三	成瀬緑化産業(株)
九州総支部	木上 正貢	木上梅香園(株)
福岡県	執行 英利	(株)執行茂寿園
佐賀県	久保 和男	(株)葉隠緑化建設
長崎県	田雑 豪裕	(株)庭研
熊本県	木上 正貢	木上梅香園(株)
大分県	川津 潔	(株)大山
宮崎県	徳地 信一	(株)橘緑地建設
鹿児島県	間世田武裕	(株)桂造園
沖縄総支部	下地 浩之	(有)西原農園
沖縄県	下地 浩之	(有)西原農園

総務委員			
区分	氏名	会社名	部会
委員長	林 輝幸	西武造園(株)	東京
副委員長	園田 能文	(株)石勝エクステリア	財務
〃	鈴木 誠司	(株)日比谷アメニス	広報・企画
〃	有賀 光昭	西武造園(株)	財務・広報・企画
委員	中村 喜則	北海道秋山造園(株)	北海道
〃	土田 一彦	(株)土田造園	山形
〃	水庭 博	(株)水庭農園	財務・広報
〃	阪上清之介	(株)清香園	財務・企画
〃	田丸 敬三	東光園緑化(株)	企画・財務
〃	成家 岳	(株)富士植木	財務・広報
〃	岡田 茂樹	湘南造園(株)	広報・企画
〃	藤巻 慎司	藤造園建設(株)	財務・広報・企画
〃	齊藤 陽一	(株)富士グリーンテック	財務
〃	山崎 信幸	(株)長遊園	企画
〃	内山 剛敏	内山緑地建設(株)	広報
〃	丸山 晶己	北越農事(株)	
〃	小栗 勝郎	(株)岐阜造園	
〃	中西 勝	(株)中西総合ガーデン	広報
〃	西谷 勝之	山陰緑化建設(株)	
〃	古家 敏弘	(株)山地宝松園	
〃	田中 和紀	(株)園田グリーンセンター	
〃	下地 浩之	(有)西原農園	企画



増田昇教授が講演を述べる

学会の目・眼・芽

第17回

昨年2009年は、学会の創設者でもある上原敬二先生の生誕120周年でした。これに合わせて昨年5月に東京で開催された学会全国大会のちよつとしたフォーラムにおいて、上原先生の「声」を聴く会が開かれ、先生の講義テープの一部を拝聴することができました。

私にとっては初めて接する先生の声でしたが、その独特の語り口に触れてまず驚いたのは、不遜を承知でいえば最初はそれが日本語なのかすらわからず、何を語っておられるのかほとんど理解できなかったことです。

次第に慣れてきて徐々にわかるようにはなりましたが、先生のお話の内容よりも圧倒されたのは、甲高く緊張感に満ちたその声の放つAura（俗にいうオーラですが、ここでは少々気取ってアウラとしましょう）です。声には肉声でなくとも活字からは得られないアウラがあり、その強烈さが当初この国の言葉かと惑わせたのかもしれない。

活字のみを媒介に繰り広げられる「学」の世界はこのアウラというものが極めて苦手です。というか物事をそのアウラを遠ざけて理解しようとするのが少なくとも今のところの学問・科学一般の世界です。先生の声を聴きながら、造園学とアウラという、今は少々かけ離れた関係に雑念が拡がりました。

学問（科学）というものは、こうしたアウラのようなものを非科学的な主観的なものとして取り扱い対象として避け、時として積極的に取り除いてきました。しかし造園空間の本質にはこのアウラが関わっているのは誰も否定できないと思います。

上原先生は1925年に学会を興すとともに、一方でその前年には周知のように東京高等造園学校を立ち上げます。これは基本的には「研究」と「教育」を連携させる意図であったと思いますが、さらにいえば、科学としての造園の発展を目指した一方で、科学では困難なアウラの体

を持つていることも社会にはあまり知られていない。逆には生物学者などの中には、造園のつくるジオトープはエッセ、生態などを知らないという人もいます。経かし、大量の水道水を使用するものになれば、逆に環境負荷が大きくなる場合もある。こうした点はLID

験を学校という実践の場に託した、いわば「科学」と「アウラ」の関係を考えていたのかもしれない。

それから90年近く時は経ちましたが、依然として科学の世界はアウラを避けたままです。しかしその中で造園学会は、学術の発展だけでなく、以前より技術・芸術への貢献を目的に掲げてきています。会員も当初の研究者の

場として活用してよいし、すべきなのかもしれません。とはいってもこれを学術として語ると、学術の方がアウラに手が届かないのですからなかなか難しいです。

しかし、たとえば本連載の第2回でも紹介されたように、現在学会では「造園遺産」「ランドスケープ遺産」の保全を全国的に取り組み活動を進めています。遺産という過去の遺物のようですが、ランドスケープ遺産とはほとんどが現役の造園空間であり、基盤となる自然環境に、計画・設計・施工・管理・利用者などの人の営為が重なり、これが歴史として積み重なったまさにアウラが凝縮された空間であるといえます。

造園における科学とアウラ

ここで素材や空間のアウラを敏感に見出すことに長けている目利きが造園施工に携わる方々に多いことは、大いに頼りになります。学会は選ばれたアウラの空間の情報を集約しその保全のための仕組みづくりに関わっていくわけですが、その拠り所となるアウラに満ちた空間の掘り取りは、学会で活動する実務家のみならず、ひろく造園技術者の協力に期待するところが大きく、日造協関係者の皆様にもご支援を願えば幸いです。

科学がアウラを語るにはまだ時代が未成熟なのかもしれません。上原先生がもし最初から両者が遠く離れてしまわないことを深慮されていたのだしたら、私たちはまずこのことに対する認識を改めて持ち、そこに少しでも近づけるように、できることから手をつけていく必要があるように感じています。

小野 良平
(社)日本造園学会理事、東京大学大学院農学科学部研究科准教授

の考え方を踏まえ、環境共生技術など、うたつていいもの、とそうでないものを造園の立場から整理しておくことも大切だ。

造園は、公共造園の発達の過程で、公園緑地が、道路などのハード資本と同じ扱いになることで成長してきたが、自然資本としての側面もある。大銀杏はまさに自然資本、地域の資産となっており、だからこそ、多くの人々がその保全に関心を寄せた。

鈴木先生の話の中で取り上げられた造園作品が、地域の資産になっているのか、しかるべき資産となるようどう高めていくかが重要で、公園や緑地の自然資本という位置づけを考えてもいいのではないかと、このことを大銀杏に教えて貰った。

また、資本にはソフト資本もあり、LIDの1つの事例として示されたジオトープ

草刈機事故ゼロをめざして

日景 敏彦

草刈作業における飛石事故撲滅のため、より安全で効率化を図れる作業方法・手順を検討した。

アンケートから、刈払機の事故発生率が高く、原因はすべて飛石で、「刈払機取扱作業安全衛生教育」受講の有無が事故と相関。影響物件があるのに防護設備をしない、作業前の打ち合わせ、元請指示を受けず作業していることも分かった。

このため、今後の対策として、①防護施設の改良、②刈高を上げる、③刈払機取扱作業安全衛生教育の受講推進と作業手順書の作成見直しを考えられる。ヒューマンエラーによる事故であり、関心を持って貰うことが第一とした。

鎌倉鶴岡八幡宮天香移植工事

(株)やまなか園建設

代表取締役会長 小山俊一

鶴岡八幡宮のご神木・大銀杏は今年3月10日に強風の影響で根元から倒伏。推

トープとともに行う環境教育はソフト資産になる。

造園は、環境の世紀、という追い風をなかなか受けるはずにないが、マネージメントや環境への負荷低減への貢献、自然資本、ソフト資本という考え方を取り入れることで、風を受けることができるようになるのではないかと。

本日は講評というより、元氣の出るお話を多く聞き、勉強させていただいた。

会に出展、04年に浜名湖花博で作品制作、その後も様々な機会に作品を制作展示。09年9月から11月まで、第4回浜松大会（浜名湖立花博）を開催した。

モザイクカルチャーの定着は、維持管理コストの抑制が重要。長期計画に基づいたタマリユなど、植物の選定、乾燥し易い突端が多い躯体設計しないのがポイント。躯体のリユースやリースもコストダウンになる。

モザイクカルチャーは、どんなデザインも概ね制作可能で、話題を呼びやすい。浜松大会後、キャラクターをつくる企業などもあり、造園の新たな分野として発展に期待している。

新しい造園技術「モザイクカルチャー」の世界とその後

天龍造園建設(株)

工事部工事課係長 小林天竜

モザイクカルチャーは、植物を刈り込むトピアリーと異なり、デザインに沿って制作した躯体にネットを張り、土を詰め、表面に植物を植え込んで作る。

日本では、03年に静岡県が第2回モントリオール大

庭園は、管理が大切で、完成当時は、奈良文化財研究所にて保存管理されていたが、現在、文化庁の保護管理下で、予算削減にともなうような管理ができないという状況。平城宮が国土交通省管轄となり、国営公園化されたので、将来の保存管理に期待している。

高架下緑化・LID（低影響開発）

(株)九州造園

代表取締役 藤田良司

高架下緑化の仕組みは、一昨年紹介した通りで、これまで下水に流していた高架の雨水を地上部の柵に受け、U字溝による導水で植樹帯に灌水するもの。

ポイント：高架下緑化が潤いや癒しの創出、空気の浄化、風埃騒音の防止、ヒートアイランド対策、地球温暖化防止といった緑化のメリットに加え、植

物や土壌を介して降雨を浄化、降雨の地中滞留と浸透を増加させることで、自然の水循環に寄与し、結果的に環境への負荷を低減させる技術「LID（Low Impact Development）」低影響開発であることだ。

は藻の繁殖時期を過ぎた秋に年1回実施。そのほか、特殊な剪定などの管理が必要な場合は、別途発注を行うこととなっている。

庭園は、管理が大切で、完成当時は、奈良文化財研究所にて保存管理されていたが、現在、文化庁の保護管理下で、予算削減にともなうような管理ができないという状況。平城宮が国土交通省管轄となり、国営公園化されたので、将来の保存管理に期待している。

高架下緑化の仕組は、一昨年紹介した通りで、これまで下水に流していた高架の雨水を地上部の柵に受け、U字溝による導水で植樹帯に灌水するもの。

ポイント：高架下緑化が潤いや癒しの創出、空気の浄化、風埃騒音の防止、ヒートアイランド対策、地球温暖化防止といった緑化のメリットに加え、植

物や土壌を介して降雨を浄化、降雨の地中滞留と浸透を増加させることで、自然の水循環に寄与し、結果的に環境への負荷を低減させる技術「LID（Low Impact Development）」低影響開発であることだ。

高架下緑化の仕組は、一昨年紹介した通りで、これまで下水に流していた高架の雨水を地上部の柵に受け、U字溝による導水で植樹帯に灌水するもの。

ポイント：高架下緑化が潤いや癒しの創出、空気の浄化、風埃騒音の防止、ヒートアイランド対策、地球温暖化防止といった緑化のメリットに加え、植

物や土壌を介して降雨を浄化、降雨の地中滞留と浸透を増加させることで、自然の水循環に寄与し、結果的に環境への負荷を低減させる技術「LID（Low Impact Development）」低影響開発であることだ。

高架下緑化の仕組は、一昨年紹介した通りで、これまで下水に流していた高架の雨水を地上部の柵に受け、U字溝による導水で植樹帯に灌水するもの。

ポイント：高架下緑化が潤いや癒しの創出、空気の浄化、風埃騒音の防止、ヒートアイランド対策、地球温暖化防止といった緑化のメリットに加え、植

物や土壌を介して降雨を浄化、降雨の地中滞留と浸透を増加させることで、自然の水循環に寄与し、結果的に環境への負荷を低減させる技術「LID（Low Impact Development）」低影響開発であることだ。

交流会を実施

近畿総支部主催で和やかに開催

技術情報共有発表会の閉会後、近畿総支部主催による交流会が行われ、主催者を代表して坂上信明近畿総支部長が「今日は全国から多数の方々にお集まりいただき、発表者、また、増田先生から貴重なお話をいただいた。こうした取り組みが盛んになれば、日造協はすごい、会員で良かったということになる。本日は日造協発展のためにさらに親睦を深めていただきたい」と挨拶（写真）。次いで、増田昇教授が乾杯を発声、祝宴となった。木山総大阪府支部長が閉会にあたり、大阪総（大阪手打ち）を紹介。参加者も声を合わせた。

技術情報共有発表会の閉会後、近畿総支部主催による交流会が行われ、主催者を代表して坂上信明近畿総支部長が「今日は全国から多数の方々にお集まりいただき、発表者、また、増田先生から貴重なお話をいただいた。こうした取り組みが盛んになれば、日造協はすごい、会員で良かったということになる。本日は日造協発展のためにさらに親睦を深めていただきたい」と挨拶（写真）。次いで、増田昇教授が乾杯を発声、祝宴となった。木山総大阪府支部長が閉会にあたり、大阪総（大阪手打ち）を紹介。参加者も声を合わせた。



のフィールドに活用。貯留と浄化の仕組みと大切さを子どもたちに伝えている。

「造園作品選集」にみる造園事業の変化と特長

(社)日本造園学会理事、造園作品選集刊行委員会委員長、東京農業大学教授 鈴木誠

造園作品選集は隔年発行で今回の最新刊が10号、20年となる。20世紀中の作品に比べて、21世紀は公共造園作品数が減少し、民間プロジェクトが増加傾向にあり、自然性の高い空間を対象とした作品が増加、対象とする空間・環境はさらに多様化し、多様な主体との協働も増えていることが伺え、実社会を反映している。

造園は、学術、技術、芸術の総合力。作品選集や技術報告集に、施工の方々からの応募は少ない。現場でつくられた方が応募する作品選集になることが望ましい。広報日造協の7月号に執筆しているので改めて参考にしていただき、10月から募集開始の技術報告集にぜひご応募いただきたい。

こうした手法を取り入れ、北九州市でも大学や小学校などの敷地に簡単な窪地を設け、貯留や浄化に役立て、河川の負担を軽減。特に小中学校では、運動場の雨水をジオトープ池に利用。池がオーバーフローした際は、一時貯留、地下に浸透させる窪地に対応。窪地は池とともに環境教育

建設の現場で働く人のための退職金

「建退共制度」について

「建設業退職金共済制度」(以下「建退共制度」とは、建設現場で働く労働者のため、相互扶助の精神の基、法律に定められた国の退職金制度である。

簡単な手続きで加入がで

き、事業主が現場労働者に労働日数に応じ、掛金(事業主全額負担)となる共済証紙(1日分310円)を貼り、労働者は、雇用される企業が変わっても建退共加入事業所であれば、継続して共済証紙を貼ってもらうことができる、建設業界全体の退職金制度であり、退職金は24月(21日を1月と換算)以上の掛金納付により、建設業界で働くことをやめたときに建退共から直接労働者へ支払われる。

いては、掛金の一部(初回交付手帳の50日分)が国から補助される。
また、建退共制度の適正な履行により、経営事項審査において加点評価の対象となるなど、企業にとって

利点のある制度となっている。
退職金制度は、労働者に安心と希望を与え、事業主にとって優秀な人材の確保等、企業の価値を高める等、事業主・労働者双方にとつ

「造園CPD」会員登録受付中

申込み締切は10/22(金)まで

造園技術者の能力向上と

客観的評価の指標となる

所属により申込先が異なります。

①「日造協会員企業に所属している方」本部からのお知らせメールにてご案内しております。届いていない場合はお問い合わせ下さい。

②「日造協の実施する資格をお持ちの方」日造協ホームページのCPDのページ内にある「入会案内」をご覧ください。

③「上記以外」造園CPD協議会のホームページよりお申込み下さい。
造園CPDの活用状況
すでに多くの発注機関で総合評価の加点対象になっている。それぞれ必要な単位数が異なるので注意が必要です。

公園緑地の利用の方法、意義の変化に想う

造園という世界に入ってから早くも30年近い年月が経ちました。振り返ってみると、公園・緑地の利用の方法、意義が随分と変わってきたように思われます。



緑 滴

公園緑地については、機能や成り立ちにより、都市公園(基幹公園、特殊公園、広域公園、国営公園、緩衝緑地、都市緑地、緑道等)と国立公園・国定公園等の自然公園に大別されます。特に都市公園の存在効用のために、オープンスペースでの防火機能と樹木の防火機能をあげること

は常に都市公園の持つ重要性の意識を持ち続けたいものです。
特に樹木には人間の手を掛ける必要があります。樹木は、苗木や幼木を植えても大きくなるまで数十年を要します。樹木の性質、特性を知つ

て大変魅力的なものであるといえる。
問い合わせは、(独)勤労者退職金共済機構 建設業退職金共済事業本部、03-5400-4316まで。

災害時の役割ばかりでなく地球環境に大きな役割をもつ樹木という生物を扱う者として、また樹木や緑をはじめ生物多様性からの恵みを受けようとして責任を持ち、そしてよき理解者として自信を持ち続けていきたいと思っています。
中村喜則(北海道秋山造園株)

委員会等の活動

総支部長・支部長合同会議

奈良県新公会堂において開催され、藤巻会長の挨拶の後、本部提出議題として総務委員会からは新法人への移行の基本方向等を始め、技術委員会、事業委員会、国際委員会等からは主なこれまでの活動報告等が行われた。その後、総支部・支部からの提出議題について、意見交換が行われた。

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。
このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。
なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

日造協賛助会員の紹介 24

テック大洋工業(株)

テック大洋工業は、都市

環境・公園施設をメインに

道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工

組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」

立入検査等を実施

建設業の取引の適正化については、法令の遵守等を通じ、その推進が図られてきましたが、依然として不適切な取引が指摘されていることから、適正化を一層推進する必要があります。

このため、11月1日から11月30日までを「建設業取引適正化推進月間」とし、国土交通省、都道府県的主

体で、建設企業を対象とした講習会、立入検査、ポスターの配布や新聞、機関誌を通じた広報を行い、法令遵守活動を展開することとなっています。

なお、立入検査は、月間以外の検査に加えて行われ、各許可行政庁ごと、また連携し、検査と指導が行われます。

テック大洋工業は、都市環境・公園施設をメインに道路、河川情報板、鍛冶工芸、各種競技場用照明鉄塔、照明ポール、鋼構造物、自然エネルギー発電設備等の製品を設計から製作・加工組立、据付、メンテナンスまで一貫したものでづくりに取り組む、お客様のニーズに合った製品をお届けして

行った。(10月1日、2日)

総務委員会広報部会

①広報日造協10/12月号、②総支部長・支部長合同会議資料の会員への周知、③新年号及び40周年記念事業、④スローガンポスター等、⑤紙面広告の対応について検討。(10月5日)

総務委員会企画部会、新法人移行検討プロジェクトチーム合同会議
新法人移行の具体的作業に向けて検討を行うことと

また、翌日は、全国都市緑化ならフェアの視察を

11月は「建設業取引適正化推進月間」